



令和 7年 2月17日

南陽市議会議長 遠藤 榮吉 殿

真政会

会派会長 板垣 致江 子

令和6年度 会派先進地等調査の報告について

このことについて、次により先進地等調査を実施いたしましたので、南陽市政務活動費に関する内規第4条の規定により報告いたします。

項 目	調 査 ・ 研 修 内 容
調査期日	令和6年11月10日(日)から12日(火)まで2泊3日
調査場所	① 福井県勝山市議会 ② 富山県富山市議会
調査目的	① ちよいチャレ応援事業 ② 富山市まちなか総合ケアセンター運営事業
調査概要	報告書 別紙のとおり
その他	

令和6年度 真政会 会派先進地視察報告書

福井県勝山市では、ちよいチャレ応援事業と勝山市観光まちづくり株式会社について研修をお願いしました。

初日の10日は日曜日でしたので福井市の永平寺参拝と勝山市観光まちづくり(株)が運営する道の駅恐竜溪谷かつやまを研修、福井県立恐竜博物館を視察研修しました。

越前地方の中核都市である福井市(人口25万人)は北陸新幹線の延長で近代的な駅で駅構内などに大小の恐竜が設置され出迎えてくれました。恐竜をテーマに世界に発信してゆく意気込みが感じられました。いよいよ勝山市に向かい、途中永平寺に参拝。曹洞宗の本山で修行の場ですので緊張感を持って参拝しましたが、外国人・若者・高齢者など多くの参拝者に感心、そしてテキパキと案内する修行僧の若者、これも修行のひとつとなっているものと感心してきました。

いよいよ勝山市へ、街中の至る所に恐竜のオブジェクトが。道の駅見学から県立恐竜博物館へ。博物館は素晴らしく、もっとゆっくり見たかったのですが入場予約が最後時間で閉館まであっという間で残念でした。

〈 11月11日 10:00～ 勝山市役所行政視察 〉

はじめに勝山市の人口推移や観光についてのお話をいただきました。恐竜以外にも多くの観光資源があり、コロナによる落ち込みはあったものの年間200万人を超える観光客数があり、これからの勝山市は「かつやま恐竜の森再整備事業」に着手。令和8年春、福井県立大学恐竜学部勝山キャンパス開設、学生が集う街に。令和8年以降宿泊施設開業予定(星野リゾート出資)で更なる観光客の増加が期待されます。

① 「ちよいチャレ応援事業」 令和4年4月事業スタート 1,000,000円

市民の自主的・主体的なまちづくりに関するチャレンジを支援、地域全体の活性化を図る事業として、対象は構成員半分以上が勝山市民の5人以上の団体。公益的な事業を行い、かつ営利活動を目的としない団体。

○ 令和4年度 16件 1,542,088円

事業スタート初年度ということで16件と多くのチャレンジがあり、雑穀利用の餅つきやおはやし行列、椅子タップダンスの合同練習・発表会、国際交流キャンプなど、こどもから大人まで楽しめる事業も多く、平泉寺の利用や恐竜アートなど地域資源を活用した事業もあり、市民の盛り上がりが見られ勝山市の活性化にも大いに役立ったと思われます。

- 令和５年度 補助対象団体の要件を変更。構成員の８割以上が市民であること、代表者も市民とする。新規チャレンジを企画。

８件 ７７９,０６８円

補助要件の変更や課題とされた補助金の趣旨や補助対象経費を理解しないで申請書の提出があつたことで、事前相談を行うことが補助要綱に明記されたことが影響したのか、申請件数が前年の半分になっている。市民の趣味的なサークルにとっては補助金申請の資料作成はかなりハードルが高く事務局の大きな負担となる。しかし、事前相談ができることで次年度への挑戦にも前向きになれたのではと考えました。８件だけの事業ですが、それぞれ賑やかに盛り上がった良い企画と感じました。

- 令和６年度 市制施行７０周年を記念しての事業として補助額を１５万円に（通常事業は１０万円）

対象事業 ・ ７０という数字にちなんだ事業・勝山市の特徴や特質にちなんだ事業
・ 市内観光施設を会場とする事業

７０周年事業 １７件 他 １４件 の ３１件 ３,５３２,３００円

多くの市民団体が、市制施行７０周年を盛り上げようという意気込みが感じられました。

食生活改善推進員協議会では、７０の数字にこだわり、押し寿司の具材７０品目。７０周年の飾りつけ。また勝山の新しい特産品「やまのサーモン」の押し寿司作り体験を実施し、記念撮影をするなど盛り沢山の事業がありました。

歴史ある会なのか、本家勝山小笠原の会ではおさるのかごやちょうちん ７０＆７０ 大作戦として開善寺参道に ７０のちょうちんを飾り、かごをかついで ７０ｍ 行列など、大変で楽しい企画もありました。

南陽市でも、６０周年 ７０周年に向けてこのような記念事業枠があれば、どんな団体が、どんな企画が出てくるか、ワクワクするのではないのでしょうか。

- 令和７年度にむけては、様々な課題がある中、要項の改正を行い解決し、市が推進する政策に関する枠を設け、引き続き新規チャレンジしたい団体への支援を行っていく予定とのことでした。

〈 11 月 12 日 9:30～11:00 富山市まちなか総合ケアセンター視察 〉

② 富山市まちなか総合ケアセンター運営事業

平成 29 年 4 月に開業された富山市まちなか総合ケアセンターは小学校の跡地を利用しての事業で、市民への質の高い暮らしの提供のための医療・福祉・健康の交流拠点として作られました。主な取り組みとして 1、子育て支援 2、在宅医療の推進 3、地域コミュニティの醸成とされております。

お邪魔して、はじめに利用者さんの時間があるということで産後ケア応援室を案内していただきました。母親の身体の回復と心理的な安定を図るとともに母親自身がセルフケア能力を育み、健やかな育児ができるように支援するための施設で概ね産後 4 か月までの母と子が対象とされている。デイケア・宿泊・レスパイト・教室があり、宿泊は連続 6 泊まででき、育児に不安がある方、心身の休養が必要な方、家族から家事・育児支援が受けられない方等が利用している。利用者負担額は宿泊で 7 2 0 0 円でゆっくりとした良い環境でした。16 名の職員(助産師・保健師・精神保健福祉士)体制でした。

次にまちなか診療所の先生から説明をいただきました。

普通の診療所と思っていましたが在宅診療のための拠点で、通院困難な方・他の病院や診療所などから訪問診療が受けられない方を対象とされていて、医師 3 名、看護師 3 名、社会福祉士 1 名の 7 名での診療体制でした。

特色として、

○機能強化型在宅療養支援診療所 ○在宅専門診療所 ○在宅医療専門研修施設
在宅医療を推進する 6 つの取り組みも進められていました。

次に病児保育室を案内していただき、説明を受けました。定員を 10 名とし、一般的な病児保育事業とお迎え型病児保育事業を行っており、お迎え型はスタッフが保育所などにタクシーで迎えて預かるということでした。市民の非課税世帯・ひとり親家庭・生活保護世帯への料金の補助も手厚くされていました。特に病児保育専門士の方から色々なお話を聞かせていただきました。

他地域や市内でも病児保育専門士の養成を行い、病児保育室が開所されているとのことでした。

私は南陽市にも絶対に必要で、何とか出来ないかと提案してきましたので、改めて勉強させていただきました。富山市のような大きな自治体のようにはいかないでしょうが必要とされている施設ですので、提案し続け協力してゆきたいと思います。

その後、こども発達支援室なども案内・説明をいただきました。南陽市も発達支援室が必要となっている時期ではないかと思ってきたところです。